

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2年後期	2	2	選択
担当教員			
小栗 勝也			
添付ファイル			
講義概要			
本科目では、現代日本における新聞・テレビ・雑誌等の各種メディアから流される情報の中味の問題について考察する。特に社会的政治的歴史的の問題に関する情報を中心に扱う。具体的には、情報大国日本のメディアの力量と質の実態、メディア関係者に見られる特定の傾向、マスコミでもはやされる言論人の特徴、情報の送り手・受け手双方の人間的「質」の問題、メディア情報との賢い付き合い方などを講述する。また、可能であれば、併せて実際の新聞雑誌等の生の報道情報を調査・比較する作業も行いたい。			
授業計画	1	現代日本のメディア入門 世界有数の情報大国日本とその質	
		【準備学習】 シラバスを読み、授業全体の流れと注意事項を把握しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)	
	2	日本のメディアの問題点 1 日本の新聞の体質～誤報事例①	
		【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)	
	3	日本のメディアの問題点 2 日本の新聞の体質～誤報事例②	
		【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)	
	4	日本のメディアの問題点 3 日本の新聞の体質～謝罪事例	
		【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)	
	5	日本のメディアの問題点 4 報道関係者の意識～5つの体質	
		【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)	
	6	日本のメディアの問題点 5 報道関係者の意識～サンゴ事件他	
		【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)	
	7	前半のまとめと演習 1回から6回までの授業内容のまとめと演習 (授業中に復習テストを行う。テストの詳細は1つ前の授業の最後に告知する)	
		【準備学習】 ここまでの全ての授業内容を復習しておくこと (3時間以上) 【AL】 AL＝アクティブラーニングの④に相当する課題 (自分自身の個人的な考えを自ら深める)を兼ねて実施するまとめ。	
	8	メディアによる情報操作 1 メディアによる歴史歪曲～事例① (★★注意★★ 履修者が少数で実習的作業が可能な場合は、以下、班別の雑誌論調比較調査とプレゼンに代える。その場合は、第8回から15回までの8回分の授業すべてで、AL⑤⑥を実施することになる。)	
		【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)	
	9	メディアによる情報操作 2 メディアによる歴史歪曲～事例②	
		【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)	
	10	メディアによる情報操作 3 テレビ番組の偏向例①	
		【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)	

	11 メディアによる情報操作 4 テレビ番組の偏向例② 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間) 【AL】 AL=アクティブラーニングの④に相当する課題として、この回の頃に、論調比較のレポートを課す。詳細は授業内で告知する。 12 政治関連報道の問題点 1 国際情勢報道の事例から 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間) 13 政治関連報道の問題点 2 特定の言論人による偏向姿勢の事例 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間) 14 複数情報の活用 1 メディアによる情報の質の違い～内容分析の研究例 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間) 15 複数情報の活用 2 情報の異同を体感する必要性とリテラシー能力の差 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間) 16 定期試験 (期末試験) (実習的作業を行った場合は定期試験は行わず、別途対応を指示をするので注意すること) 試験の場合→全部の授業内容を範囲とした試験を行う。
授業形態	講義 (なお履修者数が比較的小数の場合は、前半の講義に加えて、後半はグループ毎の調査演習と発表会を行う。その場合は講義+演習。グループ調査を行うか否かは履修者数が確定した直後に授業内で告知する) アクティブラーニング：①:0回, ②:0回, ③:0回, ④: 2 回, ⑤:0回, ⑥:0回 【+演習の場合】アクティブラーニング：①:0回, ②:0回, ③:0回, ④: 2 回, ⑤: 8 回, ⑥: 8 回
達成目標	次の1～3について理解できることを目標とする。 1、日本のマスコミが報道する内容には、時として重大な問題があることを具体的に理解できる。 2、マスコミに登場する学者・文化人・言論人等の主張には、時として重大な問題があることを具体的に理解できる。 3、メディアが伝える情報は決して同じではないことを理解し、複数の情報を比較する習慣を身につける重要性を理解し、それを実践する契機にできる。
評価方法・フィードバック	達成目標1～3の全般について問う中間のまとめ試験及び期末試験の結果を70%、また達成目標3のために実施する論調比較調査レポートの結果を30%で評価する。なお、授業後半を実習的学習にした場合には評価の方法を変え、達成目標1～2について問う中間のまとめ試験の結果を50%、達成目標3のための実習課題の結果 (レポート) 50%で評価する。 授業中に実施する中間のまとめ試験又はレポートに関するフィードバックについては、実施 (又は提出締切) の翌週の授業で模範解答 (小論文問題やレポートの場合は期待される内容の要旨) を示し、自己採点できるようにする。
評価基準	秀： (目標1～3について完全に理解) 100～90点、優： (目標1～3についてほぼ理解) 89～80点、良： (目標3つのうち2項目について完全に理解) 79～70点、可 (目標3津のうち2項目についてほぼ理解)：69～60点、不可：59点以下
教科書・参考書	・小栗勝也『政治・歴史・マスコミ』 (SIST教科書)。本書は授業内容そのものが書かれているものではないが、この授業の単位を修得するために必要となるので、必ず購入しておくこと。 ・参考書：必要があれば授業の中で適宜、指示する
履修条件	できれば事前にⅠ類選択科目の「政治学」 (1年後期) と「歴史学」 (2年前期) を履修していることが望ましい。
履修上の注意	・私語・飲食等厳禁 ・情報学部で将来、小栗担当の「情報デザイン実践演習2」 (3年後期) & 「卒業研究」 (4年) に進むことを希望する者は、3年前期終了までに本科目、及び「政治学」「歴史学」 (共にⅠ類) に合格していることが強く期待されているので承知しておくこと。
準備学習と課題の内容	各回の授業計画中に記してある通り、「準備学習」 (1.5時間) として、毎回、前回の授業内容を復習し、完全に理解した上で授業に臨むこと。同様に、授業後の「課題」 (1.5時間) として、自分のノートにミスや遺漏が無いかをチェックし、各自で補強しておくこと。その際、必要なら、いつでも小栗に質問に来ること。
ディプロマポリシーとの関連割合 (必須)	知識・理解:30%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:20%, 態度:10%, 技能・表現:10%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	